

けを「フレーバー」と呼び、化粧品などへの香り付けは「フレグランス」と呼ばれています。

合成香料

アセト酢酸エチル、ベンズアルデヒド、アセトフェノンなど「食品衛生法施行規則別表第1」に記載されている化学物質で、匂い付けを目的で使用するもの。現在許可されている物質は、2500品目にもおよび、これらを多数の物質を組み合わせて「本物らしさ」の匂いを創作、微妙な調合は調香師の腕の見せどころとされています。なお上記のアセト酢酸エチルはイチゴやジャスミンの匂い、ベンズアルデヒドはアーモンド、アセトフェノンはオレンジの匂いに似ているとされています。

天然香料

食品添加物天然香料基原物質リストに記載されている612品目の植物原料や動物原料から香り成分が抽出されています。それらの成分を多数組み合わせることで着香の目的で使用されています。イチゴやトマト、ミカンと云った果物からキュウリや玉ねぎと云った野菜類、魚介類などあらゆる食材から香り成分を抽出され商業ベースで香り付けが行われています。もちろん食物アレルギーとなる材料も含まれていて、そんな場合はどのような成分が含まれ、どのような薬剤を使って抽出するのか一切明記されません。

表示はただ「香料」としているだけ

合成香料、天然香料とも使われる量のごく微量ということで食品衛生法では「香料」と表示するだけで詳しい化学物質名は省略してもいいことになっています。化粧品などはアレルギーの方なら少し構えて詳しく成分を読みかだして危険な物質の有無を確かめられます。もちろん化粧品にもただ「香料」と表記されているだけです。しかしながら食品となると毎日のモノですから「香料」と表示してあるだけでは不安が残ります。さらに製造現場でも「香料」は専門企業に外部委託し、調香師はレシピを公開しません。食品会社の「お客様相談室」に問い合わせてもこれだけは判りません…という返事が返ってきます。知ってどうのこうのというレベルではないのですが何かスッキリしませんね。

◆ 逃げ出したいトイレの消臭剤

何であんなに強烈な匂いでゴマ化すの…って云いたくなるトイレの芳香剤。臭いものにフタをするというコトワザの見本のようなモノ。とくに駅などのトイレはアレルギーの方には鬼門、入りたくても自宅や会社まで辛抱と云う方も多いようです。街角の宣伝放送や街頭音楽は音量規制がありルールが一応は守られています。しかし臭いだけは野放し。昔は汲み取り式…と云っても判らないかなあ、まあ臭気ぶんぶんのトイレだったのでキンモクセイのような強い匂いでカバーする必要性がありましたが、いまは状況が変わって家庭用では様々な香りのバリエーションが楽しめる品ぞろえ。しかし一歩外へ出ると「業務用」がはびこって大量に必要なためコストが優先、そこで「安物」の匂いの氾濫となってアレルギーとなることもあります。何とかならないものでしょうか。

◆ 病院の匂いってどう思います？

病院やクリニックはドアを開けただけで薬品臭が鼻をつきます。その主なものは消毒薬の臭い、ウイルスにも有効ということで次亜塩素系を採用するところもあってほのかな塩素臭も感じられますが

消毒薬ではグルタール(グルタルアルデヒド)が主役。強力な殺菌性と引き換えにアルデヒドガスを放出しこれは看護師さん泣かせとか。文字通り目の粘膜を刺激して涙がポロポロ、換気の行き届いた機械器具消毒の専用室で使われますが、ダクトを通して院内に流れてきてアトピーの方にも耐えられない刺激です。また一部のアトピーの方にはお馴染みの皮膚外用薬「グリテール」も独特の匂いがし採用している先生のところはすぐに判ります。さらにまた外科などではゴム手袋を使うことが多く、何処からともなくゴムの臭いが漂ってきます。ゴムの臭いだけでラテックスアレルギーが起こったという例もあって病院側も目につかないところで消臭努力はしておりますが、今度はその関連でオゾン臭がしないでもありません。病院通いのベテラン?によれば標榜科目ごとに特有の匂いがあるそうです。新しく建てられた病院やクリニックはそれなりに建材を吟味しシックハウスならぬシッククリニックに配慮しているとのことですが、CS(化学物質過敏症)を診てもらうために病院に行くとCSが余計に酷くなったというブラックジョークのようなこともまだまだあるようです。病院の匂いって仕方ないのでしょうか…ちょっと気になりますね。

◆ ガス漏れを知らせるための「付臭」

1937年アメリカテキサス州のある町の学校でガス爆発があって、ガス漏れに気づかず引火、300人以上の犠牲者が出たことから、それ以後、都市ガスなどに玉ねぎの腐ったような臭い=ブチルメルカプタン(有機硫黄化合物)で臭い付けをし、ガス漏れが判るようにされています。この臭気のもとブチルメルカプタンはごくごく微量でも人の嗅覚で感知でき危険を知らせる役割で取って臭いを付けています。逆にサリンなどの毒ガスは無色無臭ということで危険を察知する暇もなく死に至る恐ろしいもの。

人も動物も嗅覚は危険物の存在を見分ける重要な働きをしますので、無臭というのは情報が無いこと、視覚で云えば暗闇のようなもの。悪臭であれ芳香であれ匂いがあることは安心安全のためにととても重要な情報ということが云えます。

視覚と嗅覚は似たモノ同士

鼻が匂いを感知する仕組みは視覚に似ているそうです。匂いは固有の「におい成分プロフィール」があって多くの微量化学物質で構成されています。ニンジンのおい成分の中には加齢臭のもととなる「ノネナール」も含まれ、そういえば何となく似ていますね。それぞれの「におい成分」は鼻の最上部にある嗅上皮を構成する受容体で「におい信号」に変換され脳に伝えられます。におい分子受容体は人で388個、犬で872個あって犬の嗅覚が鋭敏なのはこの受容体の多さによるもの。個々の受容体は鞭毛を持っていて7層の膜構造のタンパク質で出来ているということです。この受容体が鍵穴の役目をし、それぞれの化学物質がそれに見合った受容体と反応して感知され、その組み合わせで「匂い」を判別。ちょうど多くの色彩が三原色に対応した視細胞の刺激の組み合わせで個々の色彩を判別するのに似ています。

嗅覚の仕組みの解明は1990年代初め頃からで、まだまだ新しい研究分野、何十万という匂いがどのようにして嗅ぎ分けられるか、そのメカニズムはこれから究明されるということですが、微香好みの日本人は微妙な匂いの違いを嗅ぎわける能力に優れていると云われます。華道や茶道に比べて少数派となりましたが香道などはその例ではないでしょうか。

◆ 脳の中核と直結している嗅覚

アンモニアを嗅ぐことで眠気が吹飛び覚醒すること、さらに気を失った時の気付け薬となるのはよく知られています。心臓疾患の発作時には「亜硝酸アミル」の気化ガスを嗅がせて心臓の冠状動脈を拡張する緊急処置として使われています。

匂いを嗅ぎわかる中枢は脳の最下部脳幹に近いところにあり、ここは命に関わる重要な分野、嗅覚の判別によって即、行動に移れるからでしょうか。そのような中枢に近いところですので匂いの刺激には昆虫から人まであらゆる生き物は鋭敏です。

動物の嗅覚と行動ではフェロモンや異性の発する匂いによって繁殖行動のスイッチが入るとされ、犬によく見られる「オシッコ」によるマーキングも縄張りを示す匂い付けで嗅覚によるもの。いっぽう人も同じく、ムスクの男性ホルモン様作用や興奮作用を利用した薬剤があって匂いは生存や繁殖と直接かかわっているようです。匂い分子は「官能基」が多いとされています。意味は全く違うのですが、何となく「納得」って感じがしないでもありません。官能という語は臭気や味覚、触覚などの「官能検査」というものがあり、「ものの機能や、それへの応答や反応」を指すコトバで、英語の「Functional」を直訳したもの。パソコンのキーはファンクション・キーと云いますが、これだと「官能キー」になりますね。おかしな名前ですが匂いの多くは「官能基」に属する化学物質だそうです。

◆ 消臭グッズのあとに芳香グッズ

ひととき流行った消臭という売り言葉、あるいは微香。その裏返しでしょうか、洗濯モノに匂い付けをし、それを長持ちさせるという洗剤が大ブレイク。洗濯モノにわざわざ匂いを付ける必要があるのだろうか？なるほどグッドアイデアですが、匂いは好き嫌いの個人差が大きく、ある人には芳香でも、別の人には悪臭とは云わないまでも異臭です。市販されている洗剤の匂いは甘い香りで、そんななか「超甘い香り」が長期間持続する洗剤がベストセラーになっています。それは匂いを持続させるために芳香成分をマイクロカプセルに閉じ込め洗濯後に徐々に匂いを発散させるために、何かにこすれるとマイクロカプセルが壊れて匂いが放出される仕組み。そのカプセルはメラミン樹脂を主体としカチオン化(マイナスイオン化)セルロースとアニオン(陽イオン)界面活性剤で構成されているという。いいですか|カプセルは超微粒子ながら正式名メラミン・ホルムアルデヒド・レジン。ちょっと考えましょう…つまりカプセルが壊れないと芳香が発散されない、そしてカプセルはメラミン樹脂でできていて、メラミンは壊れるときにホルムアルデヒドが発散する。この矛盾をどのようにブレイクスルーしているのでしょうか？放散されたホルムアルデヒドをカチオン化セルロースのマイナスイオンで無害化するという手法でしょうか？なおホルムアルデヒドの体

内へのアクセスは吸入であり匂いに恍惚としていると有毒物質が体内に取り込まれているという構図が描けます。ナノ単位のごくごく微量とは云うものの、取って危ないものに近づく必要があるのでしょうか。

ATOPIC WHO'S WHO

* アナフィラキシーの発見者 *

Charles Robert Richet ロベルト・リシェ

20世紀初頭、地中海沿岸のモナコは夏の間、観光客でにぎわい、多くは海水浴が目的でした。その観光客を悩ましたのがカツオノエボシという電気クラゲ。触手に触れると強烈な痛みとともに数時間腫れあがり、二度目に刺された時は死ぬこともあって観光地では頭の痛い問題でした。当時のモナコ公国のアルベール皇太子は、その対策を生理学者のリシェと同僚のポワチエに依頼、皇太子自らもヨットで海洋調査に参加しアフリカ最西端沖にある大西洋カボベルデ諸島付近で大量のカツオノエボシを捕獲。リシェは捕獲したクラゲの触手から分泌物を抽出しモルモットに注射するとすぐに死に至り、激毒の存在を確認しギリシャ神話の眠りの神「ヒプノス」に因み「ヒプノトキシン」と名付けて3種類の化合物を分離しました。リシェとポワチエはさらにインゴゲンチャクでも同じ手法で研究し激毒を確認し今度は犬を使って実験したところ、一度目の注射で死を免れた犬も二度目の注射ですぐに反応がおこり一時間以内に死に至り、この事から1922年に劇症アレルギーの存在を知り、アナフィラキシーの概念を確立。リシェは1913年にノーベル賞を受賞しています。アナフィラキシーは古代エジプトの記録にスズメバチに刺されて急死したという王の話があり、蜂に刺されて死ぬことが長い間、謎とされていましたが原因が解明されたこともあって話題となりました。

シャルル・ロベルト・リシェは1850年にパリの高名な外科医の家に生まれパリ大学で医学を学び1927年までパリ大学の生理学教授を務めました。はじめ哺乳動物の体温調整機能の研究をし、また結核の治癒過程での栄養の関与を犬で実験したりしていました。リシェはアナフィラキシーを発見したことから「アレルギーの父」とも呼ばれています。なお後にモナコ公となるアルベール皇太子は海洋学者として知られ深海生物の発見やマッコウクジラの胃の残存物から大王イカの存在を知り、伝説上の海の魔物の正体を突き止めました。さらにリシェと行動を共にし、カツオノエボシを追った航海が後に地中海から大西洋への深層海流の発見につながりアルベール1世の功績をいっそう高めました。

皆さんでつくるアトピージャーナル

日本アトピー協会通信紙 **あとぴいなう**

発行 特定非営利活動法人 日本アトピー協会
 発行人 後藤田 育宏
 主幹 倉谷 康孝

〒541-0045 大阪市中央区道修町1-1-7日精産業ビル4階
 電話 06-6204-0002 FAX.06-6204-0052
 E-Mail jadpa@wing.ocn.ne.jp
 Home Page <http://www.nihonatopy.join-us.jp/>

医学会患者会情報・新製品ニュース
 話題・トピックスなど随時ご投稿ください。
 鋭意検討のうえ掲載いたします。

次号発行予定 5月12日

◆ 逆のような感じですが…

医療重点のフランス、美容重点のイギリス

アロマセラピーの歴史はエジプトのミラづくりまでさかのぼることができ、ファラオ(王)の遺骸の保存に香油が使われ防腐に役立っていることから傷の治療などに使われた事は容易に想像できます。中世となってルネサンス以前にすでに化学的な考えが芽生えていたアラブ世界では乳香などを用いて病気を治療し、また蒸留法によるバラの精油も作られ、この技術は十字軍の中東からの帰還の際に西欧に伝えられ香水が発達したとのこと。

さて科学的な実証でアロマセラピーの考え方を築いたのは香料の研究者、モーリス・ガドフォセというフランスの学者で、実験中に手を火傷し、とっさにラベンダーの精油に手を浸したところ著しい治癒効果があって医療面での精油の利用の研究に没頭、1928年に研究の成果を学会発表しました。

その後、ジャンパネルというフランスの医師が1964年に「植物・芳香療法」という臨床実践の本を著わし医師の本格的な参画を得ました。この年には東京オリンピックが開かれていて医学的には半世紀近くの実績があります。またイギリスでは主に皮膚美容の領域に医師が参加し、この分野で独自に発展、わが国のアロマセラピーはこの流れをくむものとされています。

◆ エステ分野で発達してしまった結果、民間療法の一つという認識に

わが国へは1980年代にアロマセラピーが紹介され、有名タレントさんが先頭に立って普及に努め、とくにエステ分野で広がってしまった結果、専門医の薬理的あるいは臨床的検証を得ることなく「一人歩き」をしているのが現状です。アトピー性皮膚炎への効果効能は未知数です。また植物由来の精油に対してのアレルギー反応も未知数ですが、アストリンゼント作用、モイスター作用、皮膚を柔らかくするエモリエント作用などが確認され、さまざまな香油をブレンドして皮膚への有効な作用を引き出すことはこれからの課題です。現時点では美容分野での領域であり、施術者はセラピストまたはメディカルトレーナー等と名乗っていますが国家資格ではなく医療行為は出来ません。

美容領域が先行してしまった結果、残念ながら医師が「本気」で研究しようというモチベーションが希薄となってしまう専門医が経過観察した臨床効果が得られにくいのが現状です。

ただ近年、「美容皮膚科」を標榜する医師も増え医療分野への応用は今後の展開となりそう。学会の動きに期待したいものです。

まとめとして「匂いとアレルギー」

「香害」にはやはりマスクでしょうか

アレルギーやアトピーを持っている皆さんは臭いにはとても敏感。異臭に限らず芳香も気になりますね。窓を閉め切った満員電車ではシャンプーや残留洗剤、コスメの匂いが充満、本来は芳香の筈が雑多に混ざり合ってまさに「香害」。また雑貨店では塩ビ臭などの微量なVOCの臭い、街を歩けばディーゼルカーボンや排ガスの異臭、そして橋を渡ればメタンガスの臭い。普通の人でも気分悪くなりますね。ちょうどこれからは花粉の季節ですので、花粉カットとともに「香害」

に対してもマスクは多少の緩和が期待できるかも知れません。量販店なども長時間滞留するときはやはりマスクが必要でしょう。ともかく臭いを「異臭」と感じたら、直ちにその場から離れるのが身のためです。臭いは「危険信号」と隣り合わせであるということを知り、くれぐれも忘れないように。

◆ 積極的に嗅ぎたい匂いフィトンチッド

ホルムアルデヒドが「悪玉VOC」の代表とすればフィトンチッドは「善玉VOC」?そんな単純ではありませんが森の木々はテルペンやフラボノイドなどの揮発性化学物質を発散させ虫などを遠ざけています。ということは、フィトンチッドは基本的には殺虫剤?…でも人畜には無害です。

その清涼感による癒し効果は定評、また長期的には呼吸器疾患への改善も期待され、健康にいい働きは否定できません。高原にサナトリウムが多く作られているのはそのため。欧米では日本以上に森林浴が盛んです。

さて森林浴は街中でも出来ます。早朝の公園を散歩すれば木々の清々しい匂いが充満、青葉の季節には特有の匂いが立ち込め気分が爽快。早起きは三文の徳以上に健康にいい働きをします。花粉症の方に心配な杉の木は街路樹には植えないと聞かれています。

◆ 日に干した「布団」のいい匂い

匂いの原因にはさまざまな説があるようです。紫外線で死んだダニが発する匂いという説もブログなどに掲載されていますが的はずれだと思います。しかし紫外線が影響していることは確かだと思います。単純に推測すれば洗剤成分が紫外線で分解された時の匂いで、布団乾燥機での乾燥後にあの匂いはありません。

そうすると洗剤に含まれる界面活性剤か、柔軟剤か、漂白剤か、あるいは芳香剤か。大手メーカーさんあたりそんな研究はしないのでしょうか。あるいは布団屋さん領域でしょうか。匂いの原因はどうであれ日に干した布団の匂いには癒されますね。少なくともダニ・カビが減少したという安心感が安眠を誘います。天気の良い日には布団干しに励みましょう。

◆ それとなく「お仲間さん」と判る外用薬の匂い

普通の方には絶対に気付かませんがシャツなどに残る外用薬の臭い、洗っても、洗っても落ちません。私たちは「軟こう汚れ」と呼んでいます。電車やバスで隣に座った人から「ん?この臭い…もしかして」って感じたことはありますよね。ステロイド軟こうは少し粘度の高いワセリンが基剤となっていますので、洗濯しても少し残ります。洗濯を重ねるごとに臭いも強くなります。またグリテールを処方されることもあり、この外用薬は独特の臭いがします。アトピーの方の肌着はコットンが定番、また洗剤選びにも慎重なので洗浄力の強いLAS系は選びません。そんなことで軟こう剤の臭いが繊維の間にどうしても残ってしまいます。

軟こう汚れの肌着などは洗濯機でいきなり洗うのではなく、一晩ほど洗剤を入れた水に漬けておいてから長い目の時間をかけて洗濯機を回し、すすぎ時間も普通の倍ほどかけ、さらに天日干しすれば、あの嫌な臭いも少しは低減します。

なお匂いとアレルギーについては若干、あいまいな結末で終わりますが、何かアイデアや持論がありましたらお聞かせください。

講演会はしご巡り

アレルギー週間に各地で開かれる講演会は聞き逃しに出来ない催事ばかり、多くは土日に集中し二月は休日返上で会場めぐりをしてきました。

◆2月4日(土) 会場:奈良市「秋篠音楽ホール」 市民公開講座奈良「アレルギーと上手につき合おう」

近鉄西大寺駅に隣接したデパートの中のホールでとても足回りのいいところ。天平美女の伎芸天像のある「秋篠寺」は会場からかなり遠方であって、何でここが「秋篠」なの…と。じつはそこに寄り道して天平美女を拝観、それで会場に着いた時には山田先生の講演が始まっていました。まあ奈良会場ではアトピー性皮膚炎の講演は山田先生だけだったので他の先生方には恐縮ですが辛うじてセーフ。それでアトピー性皮膚炎についてですが原因、症状、治療についての講演は半ばごろから興にのり久々の山田節を拝聴。専門用語がポンポンと飛び出して、先生ちょっと待って、もう少しゆっくり…と叫びたくなるような…。「アトピーおたく」はともかくとして「アトピービキナー」の方には少し難解だったかも知れません。



◆2月11日(土) 会場:淀屋橋「朝日生命ホール」 アレルギー週間市民公開講座IN大阪

済生会中津病院小児科医の末廣 豊先生が「こどもの喘息」について定義、重症度に至る5段階の判定、また思春期まで適切な対応がなされなかったら難化する傾向があるなど、お母さん方が知っておくべき事項を平易な言葉づかいで解説。小児喘息は日頃、しっかりした対応をしているなら恐れることはなく、また着実に治療を重ねてゆけば、大人になって差し障りのない程度に社会生活が送れることが可能となるという。さらに運動誘発性喘息にも触れ、学校での対応などが課題となっているなど、新入学児を持つお母さん方には聞き逃せない内容でした。

末廣先生のレクチャーに先立ち関西医科大学耳鼻科の朝子幹也先生の「2012年花粉症の傾向と対策」についてのお話があって、スギに感作する患者さんの80%はヒノキにも感作、60%がイネ科にも共通しているという興味あるデータを示され、最近の黄砂による影響も考慮しなければいけないとか。また特に「スギ花粉症」による減感作療法には問題点があり素人判断は禁物と警告。日本小児アレルギー学会では減感作療法の一つでもある経口免疫療法については現時点で推薦しない慎重な態度を表明。まして安全が担保されない民間療法の「スギ花粉症」には期待するのは危険です。

◆2月19日(日) 会場:千里万博公園「大阪ガス生活誕生館DILIPA」 大阪ガス・日本ハム共催・食物アレルギーセミナー

千里万博公園にある大阪ガス生活誕生館DILIPAにて国立福岡病院小児科の柴田留美子先生の講演。食物アレルギー診療ガイドラインの趣旨やアレルギーの起こる仕組みなどを判りやすく話され、また乳幼児を中心に世界的に増加している現傾向をスライドで説明。皮膚にあらわれるアトピー性皮膚炎、気管支にあらわれる喘息、アレルギー眼症など初歩的な事柄をレクチャー。お母さん方の心配の大部分を占めるアナフィラキシーについては詳しく説明。蕁麻疹、口腔の違和感、咳き、呼吸困難、嘔吐などを含めて5ランクの症状分類があり、3ランク以上になると血圧低下や呼吸困難などが現れ緊急を要し、医療機関が近くにない場合は本人や家族が注射(筋注)できるアドレナリン自己注射器エピペンで対応、最近ようやく保険適応になったとのことを詳しく解説。このほか減感作療法のメリットとデメリット、また卵アレルギーに関しては卵黄に比べて卵白でのアレルギー発症が多いことなど臨床現場でなければ知ることのできない有意義なお話を聞くことが出来ました。なお柴田先生の講演会に併設で食物アレルギー対応料理教室があり、さすがガス会社だけあって整った設備での実習と試食会が開催されました。

◆2月25日土曜日 会場:「エルおおさか」 おおさかメンタルヘルスケア研究所主催 第4回メンタルヘルスセミナー

協会事務所近くの「エルおおさか」にて関根友美さんの講演会「アレルギーとともに生きること-折れない心の作り方-」を拝聴しました。関根さんは幼少のときからアトピーを持ち続け、喘息に移行。そんななかアナウンサーとして仕事を続けていて、幾度かピンチに見舞われながら、持ち前のドンマイ精神で切り抜け、日本初の女性アナによる野球の実況放送に挑戦、一躍話題になりました。その間、学校でのいじめ、思春期の悩み、恋愛、上京、進学、結婚、出産…、その間に白内障の手術やアスピリン喘息、放送局の社屋移転によるシックハウスの発病など、さながら「病気のデパート」のような状況でも負けずじけず「根アカ」に前向きに人生を謳歌。誰もが関根さんのように行かないでしょうが、心の持ち次第では病気をコントロールでき、仕事のプロにもなれる…、その意味でアレルギーを持つ方々には一般治療、薬物治療に加えてメンタルヘルスケアがもっと必要とされていて、人や制度、施設のいっそうの充実がのぞまれます。

法人賛助企業様ご紹介 第7回

(敬称略)

協会は多くの法人賛助会員さまの年会費によって会務を行っており、本紙面を通じまして日頃お世話になっている法人様を順次ご紹介しております。関係各位にはコメントをお願いしておりますので是非アトピーの患者さんへのひとことをお願いいたします。

積水成型工業株式会社

平成16年(2004年)ご入会

所在地 〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-9-1

電話 06-6347-0661

業種 合成樹脂加工製造行

アトピー関連商品 『美草』たたみ表使用の健康衛生畳

* アトピー患者さんへのひと言

風合いや肌ざわりが天然イ草畳と殆ど変わらない快適かつ健康衛生的な畳おもて(商品名『美草』みぐさ)としてすでに10年以上の実績があります。ダニ・カビが発生しにくくシミや汚れもサッと拭き取れお掃除も簡単、和室内の粉塵・ホコリなどの生活ダストをたやすく排除できます。また『美草』畳おもては有害物質などは全く使用していないので室内汚染の心配もありません。アトピー性皮膚炎や喘息にお悩みの方に是非ともお勧めいたします。注・美草畳は床との組合せとしてご相談ください。フリーダイヤル0120-393-756(みぐさーなごむ)

スマイルコットン株式会社

平成16年(2004年)ご入会

所在地 〒510-8123 三重県三重郡川越町豊田一色236

電話 0593-66-3344

行種 繊維製品製造販売卸

アトピー関連商品 肌にやさしい「スマイルコットン」インナー

* アトピー患者さんへのひと言

「スマイルコットン」は肌の摩擦を最小限にするために、天然素材の綿をほぐして「わた」の状態を再現しました。やわらかさや吸汗性、速乾性、保湿性など、「わた」が本来持つ機能を最大限に引き出しています。そのためにゆっくり時間と手間をかけました。余分な加工は一切していません。それでも「これが綿?」というやわらかさです。「何も足さない」がコンセプトです。スマイルコットンの「やさしさ」にふれてみて下さい。



ドクターインタビュー

青木 敏之(あおき としゆき)先生

* 医学博士 皮膚科学会専門医・アレルギー学会専門医 *

今回はお彼岸でにぎわう四天王寺さんの表参道に面した足回りの便利なビルでご開院の「あおきクリニック・かゆみ研究所」青木敏之先生をお訪ねしました。青木先生はアトピー性皮膚炎治療に関しては草分け的なご専門で長い経験と豊富な治療実績をお持ちです。

青木先生は、長年皮膚科の先生としてアトピー治療の現場に携わって来られていますが、長いご経験の中で治療をめぐる移り変わりなどがあればお聞かせいただけますか？――

私が皮膚科を選んだころは、アトピー性皮膚炎はIgEアレルギーを伴う不思議な皮膚炎でしたが、当時から最近までアレルギーの役割は皮膚科では重視されずステロイド外用のみでよいとされていました。しかし最近、花粉由来の皮膚炎の存在が明らかにされたことから少しずつ流れが変わってきました。他方、最近はアトピー性皮膚炎は表皮バリアーの不全疾患として研究がすすめられています。自然保湿因子の前駆物質であるフィラグリンという物質の欠損が話題にのぼっています。これが不足すると肌が乾燥して透過性が増加、そして刺激を受けやすくなりかゆみと炎症をおこすというメカニズムが判ってきました。乾燥対策が治療の中に組み込まれるようになりました。

診察室からみた最近の患者さんの傾向とか、例えば難治化した患者さんやステロイド外用薬について等お聞かせいただけますか？――

最近は看護、美容、介護に従事する人が増えているのでしょうか、手荒れから発症する人が多いですね。花粉で悪化する人も多いです。仕事が忙しく受診しにくいという人がかなりの症状になってから来るケースは多いです。他方、ステロイド怖がる人もまだいます。まれにステロイド外用の仕方が間違っている場合もあります。ガイドラインに皮膚症状に見合う強さのステロイドを用いることになっていますが、強さを合わせて量が少ないという例です。

赤ちゃんの場合ですが、赤かったら何が何でも使うとか、乾燥していたら使うということではないのです。頸、関節の内側などがじくつく時は亜鉛華軟膏でガードするだけで良くなることが多いですね。肌が成熟していないから、少々の症状ではステロイドを使わず赤ちゃんの成長を待ちましようということもありますね。使うとしても弱いステロイドで十分です。ならばどういう時にステロイドを使うかと云うと、僕の基準はとても単純です。ひっ搔くならば使います。「搔くならば使いましよう」とお母さんに伝えます。何故なら搔くと余計に肌を傷めて炎症が進行するからです。それを断ち切るためにも必要で、ステロイドを「使う」「使わない」の最大の基準は「搔くか搔かないか」です。それ以外の基準は僕の場合ないですね。

ステロイドの使い方についても工夫ができると思います。例えば強いステロイドの大量だと確かに気持ち悪いですね。そこで考えられるのは急性症状では皮膚が傷んでいるほど弱い薬でも効くので弱いステロイドからスタートしますが、その代わり大量に用います。そして一定の効果が確認でき、症状が止まったらステップアップします。重症の大人の場合は難しいですね。一定以上の強さのステロイドを症状に応じて長期に亘って使わざるをえない。副作用との戦いですね。そしていちばん悪いのはストレスです。つまり身体的、精神的ストレスですね。これがアトピーの最大の敵と云えますね。身体的過労、精神的過労、もちろん、夜更かし、不摂生などもつきめんに症状に現れます。しかしながら、これらの多くは社会的な原因ですから



青木敏之(あおき としゆき)先生のプロフィール

あおきクリニック・かゆみ研究所 院長

〒543-0052 大阪市天王寺区大道1-8-15 ECS第22ビル

電話 06-4305-8600

医学博士。皮膚科学会専門医・アレルギー学会専門医

昭和10年 大阪府生まれ。

大阪大学医学部卒業、大阪大学大学院医学研究科修了。

1966年から2年間ロンドン大学皮膚病研究所へ留学。

皮膚免疫学の研究に従事する。帰国後、大阪大学医学部助手、

大阪府衛生部保健予防課、大阪府立羽曳野病院皮膚科部長、

副院長を経て、平成11年から現職。

あおきクリニック・かゆみ研究所の治療方針は、アトピー性皮膚炎は、一人一人異なる悪化原因を発見し、患者さんお一人お一人にあった治療をご本人やご家族の皆さまとじっくり相談しながら進めていってまいります。

趣味は写真。好きな山登りで撮影した写真をHPでも拝見できます。最近では患者さんと一緒に山登りすることもあるそうです。

医者ができることは少ないですね。

ストレスがアトピーの原因になっているのですか？もう少し詳しくお聞かせいただけますか？――

昔は、アトピー性皮膚炎は裕福な人の病気などと云われていましたが、今は逆になりましたね。ストレスが原因ですからね。お金持ちの人は遊ぶ暇もあるし、うまい料理を食べているだろうし、ストレスが溜まりにくいですよ。若い人たちは就職難で、仕事が見つかって収入の安定がないなかで複数の下働きの職種をかかえています。ストレスにならないのがおかしいですね。そんな訳で今の時代、アトピーが減らないですね。そういう方が症状悪化で来られますが、気の毒ですよ。社会の現状を診察室から垣間見るようで胸が痛みますね。

最後にアトピーの症状が重く社会生活が難しい患者さんに青木先生から励ましのメッセージをお願いできますか？――

赤ちゃんの場合はいずれ良くなりますので心配しないことです。大人で症状の良くない人には副作用のでない範囲で積極的治療をしてQOLを高めて楽しい人生を送って頂きたいと思います。とにかく前向きにチャレンジしてほしい、それが僕の希望ですね。

本日はお忙しいところありがとうございました。

ATOPICS

先生方にホームページ掲載へのお願い

医療機関紹介ページのいっそうの充実を図りたく、順次、先生方に治療方針等をお尋ねするシートをお送りしております。他の紹介HPにはない患者さんへの親身になった内容に高めたくお手数ですが患者さんへのメッセージも含めまして是非ご返信をお願いいたします。

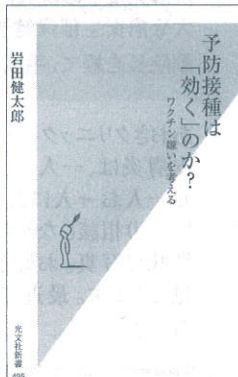
読んでみました!! この書籍!!

みなさんのご参考になれば幸いです。読めば参考になったり、反対に落ち込んだりする事もあるかもしれませんが、頑張っって前向きに捉えて行きましょう。

【タイトル】予防接種は「効く」のか?

【著者】岩田健太郎 【出版社】株式会社 岩田屋 【定価】840円

ワクチンをどうして打つのでしょうか?字のとおり感染症を事前に予防するため接種すると言う事でしょうか?接種したおかげで感染症に罹らなくて済んだかもしないのですが効果が実感出来ませんね。反対に副作用は、はっきりとした状態で確認出来る為、どうしても「ワクチンは大丈夫?」と思ってしまう。最近ではポリオの生か不活化化でお母さん方の心配は尽きません。ワクチンの有効性について著者は「車のシートベルトの様なもの」と書いています。「ベルト(ワクチン)をしていても交通事故(インフルエンザ)には合う」という例えはナルホドです。細菌とウイルスはどう違うのでしょうか?乱暴な区別をすれば抗生物質が効くのが細菌、ワクチンが効くのがウイルス。風邪は抗生物質が効きますがインフルエンザは効きません。ジフテリア・種痘・天然痘など間かなくなった感染症は、やはりワクチンが効いている成果でしょうか?



【タイトル】民間療法のウソとホント

【著者】蒲谷 茂 【出版社】株式会社 岩田屋 【定価】730円

健康雑誌「壮快」の創刊に関わり、編集長まで務められた方が反省の意味も込められたのか、「壮快」で掲載した様々な健康食品や民間療法について時代背景を追って検証されています。アガリクス・プロポリス・クローラ・コラーゲン他々。花粉症とアトピーについても「アトピービジネスには騙されない」「水ビジネスには近づかない」など書かれています。皆さんも「コレいいらしいよ!」という無責任な人づての話しに大金を使われた方も多いかも。確かに現代医学で解明されていない物事は沢山あると思いますが、雑誌は売れなければ休刊・廃刊です。ブームとムードで祭り上げられた健康食品や民間療法は多そうです。紅茶キノコは何処へ行ったのでしょうか?



ステマってなに?

ステルスって聞いたことありますね。レーダー等に感知されずに近づいてきて攻撃してくる軍事用語。そして売り言葉を巧妙に隠して学術的なトークと勘違いさせて購買を促すのがステルスマーケティング、略してステマ。

例えばバナナはカリウムが豊富で偉い先生がカリウムは神経伝達に有益な働きをすると学会発表した…と、そんな記事を見たら「頭がよくなる…」なんて短絡的に解釈し受験生を持つお母さん方はバナナを食べさせなきゃ…ってことになり店頭からバナナが消える。

- * 以前にテレビ番組なんかで使った手口をサイトで流したりして購入意欲を掻き立てる。よくよく見れば小さく「バナナ振興会」なんてクレジットがあって「やられたあ…」って気付くそんな仕組み。バナナに恨みはなく単なるモノの外エですが。こんなサイトを信じたら次から次へとアレが良い、コレも良いとなってキリがありません。
- * ステマの特徴は、①専門家のトークを引用、②学会で発表された事実はあるが拡大解釈でうわさを広げる、③商品名は明示しない、④風が吹けば桶屋が儲かる的な理論の飛躍がある、⑤早とちりや鵜呑みの解釈を誘うなど「気が付けば無益な商品を買っていた」という次第。

最近では妊婦の食習慣の調査で「アトピーの子どもの生まれる割合」を納豆とバターで比較したデータが大手新聞のサイトで紹介され、その比較は前提条件もなく、よく考えれば西洋人と日本人の朝食の比較なのか、それとも植物性と動物性の比較なのかと疑問が湧いてきます。国立の有名大学での研究とされていますが、教授名も、発表学会名もなく、こんなニュースを流したマスコミの意図が不明。まさか国立の大学が「やらせ」に加担する筈はないですが、納豆が店頭から消えないことを願っています。

こんな優れモノを見つけました!

地震の揺れでコケたら(倒れたら) 防災明かりになる伝統工芸「鳴子こけし」

震度4の揺れになると人は恐怖感を感じると言われ何かにつかまっていなくて立っておれません。とくに夜間の地震では停電になったりするといっそう恐怖感がつり、また落下物やガラス、陶器などの破片が見えないのでとても危険です。

紹介する優れモノは普段は「鳴子こけし」として玄関先や飾り棚で穏やかに微笑みかけてくれる癒し系インテリアグッズ。そして地震の際に震度3~5で倒れると自動的にLEDライトが明るく点灯し改めてスイッチを入れる必要が無く暗闇の中、手さぐりで懐中電灯を探す動作は不要。また手に持って傾けた時にもLEDライトが自動的に点灯し、暗い玄関で足元を照らしたい場合にも重宝します。東北復興支援の一環としてぜひ購入をご検討ください。



商品名「防災明かり こけし」8寸
鳴子系伝統こけし 後藤皓工人作 8,190円(税込・送料別)
電灯部分:LEDライト6個使用 電源:単3乾電池2本使用
(連続点灯時間最長8時間内外)

(株)こけしのしまぬき本店

〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町3-1-17
TEL 022-223-2370 e-mail: shima47@shimanuki.co.jp

図書の貸し出しいたします。詳しくはお問い合わせください。
TEL 06-6204-0002 FAX 06-6204-0052